

## 日本語版作成の経緯

1990年代に入り、日本国内のソフトウェア企業はソフトウェアプロセス改善に積極的に取り組むようになり、その過程で ISO-9001 取得がブーム化した。同じ頃、ソフトウェア技術者協会(SEA)のプロセス改善分科会 SPIN( Software Process Improvement Network )にて、長期的な視野に立ったソフトウェアプロセス改善には CMM のような多段階評価の方が適しているとの認識の元に、CMM の日本国内への普及が話題となった。その際、CMM のような外国生まれの技術を日本国内へ普及するにあたって我々は、CMM 普及のための第一歩として、CMM を開発した原著者等の意図通りに正確に理解することのできる日本語版のテキスト、つまり「日本人のための CMM 基本文書」の存在が不可欠と考えた。

日本語版の役割は、単に言語としての英語の得手不得手の壁を取り払うだけではない。文化や企業風土が異なる日米間では、一見等価に見える言葉でも、概念や意味内容、文脈の中での使われ方などに大きな違いがあるという場合も決して少なくない。プロセス評価手法である CMM について言えば、このような微妙な解釈のずれが誤評価などの重大な問題を引き起こさないとも限らない。このような問題を防止するためには、日本におけるソフトウェア開発の現状やプロセス改善について熟知している人々が、CMM の本質、つまり原著者等の意図を十分に理解し、原著を字面だけでなく意味的にも忠実に翻訳することが必要である。

これらの経緯から、SEA とカーネギーメロン大学(CMU)との間で翻訳出版契約を結び、CMU との間で合意された厳格な翻訳手順に従って作業が進められた。翻訳作業は、SEA-SPIN 有志による CMM 翻訳チームと検証チームとが、約 2 年間に渡っての翻訳と検証の作業を繰り返すことにより CMM の理解を深め、かつ翻訳精度を高めていった。その結果、フランス語版に続く第 2 番目の公式外国語版として CMU の正式な認定を得た CMM v1.1 公式日本語版として出版するに至った。

未筆ながら、本書の出版に当たり、数多くの方々からのご支援とご協力に感謝する。

本文書の翻訳チームメンバである坂本 啓司、塩谷 和範、田中 一夫、中村 淳、端山 毅、各氏の長期間にわたる翻訳作業への貢献に感謝する。また、数百ページにもわたる原文の初期翻訳に当たっては、高木 徳生、朝見 昇、新原直樹、田中 慎一郎、中川 明彦、前田 高明 各氏をはじめ、幾多の方々からご支援とご協

力を得た。さらに、検証作業においては、検証チームを代表する乗松 聡氏の CMM に対する深い知識と長期間に渡る検証作業への貢献に感謝する。特に、松原 友夫氏、岸田 孝一氏にはプロセス改善への深い見識のもとに文書の総合レビューを実施して頂き、完成に向けてご尽力いただいた。この他にも、SEA-SPIN メンバーを始め、テスト参加者など数多くの方々がレビューなどを通じてご助力をいただいたことに深く感謝する。

ソフトウェア技術者協会（SEA）  
CMM グループ代表世話人  
高橋光裕